

学校教育目標「思いやる」

**めざす生徒像**

高度情報化社会を「人間らしく」生き抜くために必要な

- 自分を「思いやる」心・行動力のある生徒
- 他人を「思いやる」心・行動力のある生徒

**学校経営の重点・具体**

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学力向上</li> <li>2 不登校が生じにくい学校づくり</li> <li>3 主体性の育成</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自分を「思いやる」教育活動の推進</li> <li>◇他人を「思いやる」教育活動の推進</li> <li>◇生徒を「思いやる」教職員集団の構築</li> <li>◇保護者・地域を「思いやる」学校づくりの推進</li> </ul>
--	--	--

**校内研修** 生きてはたらく資質・能力を育成する授業  
～単元の目標を明確にした授業づくり～

- 学習指導要領全面実施への準備  
(評価研修 静西教育事務所地域支援課 北川教育主査招聘)
- トリオ研修・教科研修・道徳研修・授業公開研修

**◆共通実践項目◆**

身に付けさせたい力を明確にして、  
「できたこと」「分かったこと」を  
自己評価表に記入または発表する。

毎日  
Everyday  
みんなで  
Everyone  
繰り返し  
Repeat

チーム御中で取り組もう！

～授業で「分かった」「できた」と達成感を実感させるために～

本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、教育課程の大幅な変更が余儀なくされた。これまで当たり前として捉え取り組んできた教育活動は制限がかかり、優先順位を付けた取捨選択、内容の検討や日程調整、実施に向けた手立ての工夫等を協議する場面が多くあった。しかし、この非常事態という局面は、教育活動の吟味および精選という観点から新たな見方や考え方をもたらすことになった。新しい生活様式を取り入れ、凝縮する中での本年度の取組を振り返り、学校教育目標の具現化に向けた次年度の教育課程を協議・編成していく。

<成果指標に対する経年推移>



<考察>

左グラフは、欠席率の推移である。昨年度に引き続き、「わかった」「できた」と達成感を実感できる授業を全教職員で実践することにより、欠席率低下に結びつけることができた。一方、左表の4項目については、すべての項目に置いて目標指標に到達することができなかった。学校評価アンケートと本年度の教育活動を分析し、生徒を主役に据え、温かい雰囲気のもと胸を張って自慢できる日本一の学校を創ることを目指していく。

生徒アンケート「4：とてもそう思うと答えた割合」

項目(指標)	R元	R2	前年比
学校が楽しい (80%)	68%	68%	→
みんなで何かをするのは楽しい (80%)	—	76%	—
授業がよくわかる (60%)	47%	46%	↓
授業に主体的に取り組んでいる (60%)	—	57%	—

## ◇自分・他人を「思いやる」教育活動の推進◇

### ＜学びづくり部＞ ※（数値目標）

- (1) 相手の思いを大切にし、相手の言葉に反応しながら話を聴くことができる（60%）
- (2) 自分の考えを自分の言葉で仲間に伝えることができる（50%）

「学びに向かう姿勢」

\*生徒アンケート結果（4「とてもそう思う」と答えた割合）

	項 目	R元	R2	前年比
1	授業がわかる。	47	47	→
2	相手の思いを大切にし、相手の言葉に反応しながら話を聴くことができた。	50	53	↑
3	自分の考えを自分の言葉で仲間に伝えることができた。	45	40	↓
4	授業で「わかった」「できた」と達成感を実感する場面はあった。	62	68	↑

〈考察〉

生徒は、学習の基本が概ね確立されており、落ちついた授業態度である。また、授業に真剣に向き合い、つぶやきも多く小集団での意見交換が活発にできる。昨年度に引き続き、校内研修と新たな不登校を未然防止する手立てをリンクさせ、授業改善を図った。日常的に行っている教育活動を焦点化・重点化することで、新たな不登校の未然防止につながった。今後は、主体的な学びを推進するために、家庭学習のあり方についても分析・協議していく。

### ＜絆づくり部＞

- (1) 委員会活動・教科係・学級係など、自ら進んで行動することができる（70%）
- (2) 学校・学級の一員として仲間と協力することができる（80%）

「集団の高まり」

\*生徒アンケート結果（4「とてもそう思う」と答えた割合）

	項 目	R元	R2	前年比
1	委員会活動・教科係・学級係など、自ら進んで行動することができたか。	—	67	—
2	学校・学級の一員として仲間と協力することができたか。	74	70	↓
3	学年行事や学校行事に全力で取り組んだか。	84	85	↑
4	相談したり、頼ったりすることができる友達はあるか。	76	79	↑
5	相談したり、頼ったりすることができる先生はあるか。	58	60	↑

〈考察〉

行事や部活動に精一杯取り組める御中生である。本年度は、コロナ禍のため行事や部活動に大きな影響が出たが生徒と目的を確認し、内容や方法を話し合い進めることで集団を高めることができた。また、生徒会活動では、生徒会目標を学校教育目標と関連付けて設定し、リーダーとフォロワーが一体となった取組を推進することができた。

生徒アンケート結果を見ると、学校生活を肯定的な見方で送っている生徒が多い。次年度は、温かい雰囲気の中で、「生徒主体」の考えを根幹に据えた教育活動を展開していく。

### ＜保護者・地域・行政とのスクラム＞

\*保護者アンケート結果

	項 目	R元	R2	前年比
1	家庭への連絡をきめ細かく行っている。	80.2	89.2	↑
2	保護者の相談に対して、丁寧に応じている。	87.9	95.1	↑
3	子どもを大切に作る姿勢で指導にあたっている。	89.5	92.1	↑

〈考察〉

保護者アンケートでは、学校（教職員）に対して肯定的な回答を得ることができた。一人一人の生徒を大切にするという意識が、保護者の信頼へとつながっていると考える。今後も、保護者・地域・行政とのスクラムを大切にしていく。